

平成 19 年度

石巻市自然環境確認調査結果報告書

平成 20 年 3 月

石巻市

# 目次

1	「自然環境確認調査」について	1
2	石巻市域の自然環境と植生	1
3	調査の経過	2
4	調査の方法	3
5	考察	4
	表1 調査地の植生の状況	7
	表2 主要高木樹種と常緑樹種一覧	8
6	今後の調査について	9

## 参考資料

- ・調査票（各調査地の内容を記載したもの）
- ・来年度以降使用する様式

## 1 「自然環境確認調査」について

「自然環境確認調査」は、本市の多様な自然と共生していくため、開発等により変化していく地域の自然環境を正確に把握することを目的とした事業であり、石巻市環境基本計画のリーディング・プロジェクトの一つとして平成19年度から10年間にわたり実施することとしている。

## 2 石巻市域の自然環境と植生

気候が温暖で雨量の多い日本のような自然の原型は、森林であるとされている。

日本の自然は、かつては、シイ・カシなどの常緑広葉樹が優占する西南日本の暖温帯、ブナ・ミズナラなどの落葉広葉樹林が優占する東北日本の冷温帯と大きく二つの気候帯（植生帯）に分けられるのが普通であった。戦後、暖温帯から冷温帯に移り変わる地帯に針葉樹のモミと落葉樹のイヌブナが優占する中間の植生帯の存在することが認められ、宮城県の丘陵地帯がその地帯の主要な地域に該当することが明らかになった。

石巻市域の自然環境を知るためには、石巻市域の植生帯上の位置を把握する必要がある。これまで行われた石巻市域の自然に関する調査の多くは、石巻地方も暖温帯から冷温帯への移行帯にありモミ・イヌブナの優占する中間温帯の自然であることを裏付けている。しかし、一方では調査された地域に偏りがあり、石巻市域全体の資料、地域ごとの自然の把握のための資料とするためには、空白域の調査資料を追加する必要がある。

さらに最近になって、中間温帯域とされている宮城県北部域における常緑広葉樹のアカガシやシロダモなどの分布についての報告があり、これまで一様にモミ・イヌブナ林地帯とされていた石巻市域のなかに常緑広葉樹が混生する部分があることが明らかにされた。これら常緑樹種の生育するのは内陸部の低海拔の地域であるが、これからの調査だけでなく、これまで調査された区域についても常緑樹種に着目した観点からの検討が必要であろう。

東北地方の森林群落を研究して宮城県の丘陵地帯がモミ・イヌブナ自然林で代表される中間温帯の自然であることを明らかにしたのは故吉岡邦二博士である。吉岡氏の「東北地方の植生図」は縮尺300万分の1で描かれていて、東北地方全体の植生を概観する上で最も優れた基本的資料である。これで見ると石巻市域は三つの植生に区分され、

- (1) 北上高地と牡鹿半島の丘陵地帯はモミ・イヌブナ林、
  - (2) 仙北平野部の旭山丘陵、須江丘陵、桃生丘陵などの丘陵地帯はアカマツ・コナラ林、
  - (3) 水田地帯などは沼沢・湿原植生、
- と表現されている。

この植生図については1か所疑問点がある。吉岡氏は以前、(2)域も(1)域と同じでモミ・イヌブナ林としていた。それが、自然林ではなく二次林のアカマツ・コナラ林となっていることである。その根拠については明らかにされていないが、(2)域は(1)域のモミ・イヌブナ林とは異なる自然植生と考えていたのではないだろうか。(2)域の自然林はモミ・

イヌブナ林になるのかそれとも別のものになるのか、石巻の自然環境の把握のためには、(1)域の植生と(2)域の植生とを比較検討する必要がある。

石巻市域のこれまでの調査資料は、(1)域の北上高地・牡鹿半島域に集中しており、(2)域、(3)域については資料不足であることを考慮して調査を進めていく必要がある。

### 3 調査の経過

#### (1) 石巻市自然環境確認調査実施内容検討会の設置

自然環境確認調査を進めるに当たっては、調査のあり方から検討する必要があるため、本市の自然について学識経験のある方々による石巻市自然環境確認調査実施内容検討会を設置した。

委嘱期間：平成19年の6月から11月まで

委員：次の3名の方々に委嘱

- ・ 中間温帯植物研究所 佐々木豊氏
- ・ 石巻専修大学理工学部基礎理学科教授 根本智行氏
- ・ 石巻市環境保全リーダー6期生 佐藤堯氏

#### (2) 第1回検討会

・ 開催年月日：平成19年6月29日（金）午後1時30分から午後3時30分まで

・ 開催場所：石巻市総合体育館ミーティングルームA

・ 出席者：委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏

環境対策課 今野課長補佐、鷹見主幹

委員に委嘱状を交付したあと、検討に入った。その結果、はじめのうちは歩いて地域の現状を実際に調査することから始めることとし、今年度はその初年として調査の方法と調査票の様式を実際に調査しながら検討していくこととなった。

#### (3) 予備調査

・ 調査年月日：平成19年7月9日（月）午前9時30分から午後3時30分まで

・ 調査場所：愛宕山（通称「<sup>そばのかみ</sup>曾波神山」：蛇田字曾波山）  
沢田山（小船越字沢田山）

・ 参加者：委員 佐々木豊氏

環境対策課 鷹見主幹

調査の後、佐々木豊氏の自宅で第1回調査の調査箇所について協議し、須江山と青木川の沿岸を調査することとした。

#### (4) 第1回調査

・ 調査年月日：平成19年7月27日（金）午前9時30分から午後3時30分まで

- ・調査場所：須江山（須江字寺前、関ノ入、内ノ目）  
奈羅山（青木川の沿岸：北村字奈羅山<sup>ならやま</sup>一、奈羅山二）

- ・参加者：委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏  
環境対策課 今野課長補佐、鷹見主幹

調査の後、河南総合支所1階会議室で第2回調査の調査箇所について協議し、走ヶ崎<sup>はしりがさき</sup>と富士沼周辺を調査することとした。また、調査票の様式について検討した。

#### (5) 第2回調査及び第2回検討会

- ・調査年月日：平成19年10月10日（水）午前9時から午後3時30分まで

- ・調査場所：走ヶ崎（尾崎）  
姥懐<sup>うぼかい</sup>（富士沼周辺：針岡）

- ・参加者：委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏  
環境対策課 鷹見主幹

調査の後、河北総合支所2階会議室で第1回調査の結果を確認するとともに調査様式の改善点、平成20年度の調査のあり方について協議した。

## 4 調査の方法

### (1) 調査地の選定

初年度はなるべく独立している低標高の丘陵地を選んで調査した。

- ・(2)域：内陸丘陵地域（アカマツ・コナラ林帯）・・・4か所

- ① 奈羅山（旭山丘陵の南部）
- ② 須江山丘陵の南麓
- ③ 愛宕山（曾波神山）
- ④ 沢田山（小船越丘陵）

- ・(1)域：北上高地牡鹿半島地域（モミ・イヌブナ林帯）・・・2か所

- ⑤ 走ヶ崎<sup>おつば</sup>（追波湾陸繋島）
- ⑥ 姥懐<sup>おんぼ</sup>（硯上山北東麓富士沼東岸）

### (2) 調査方法

調査は、1か所2～3時間で調査可能なコースを設定し、コースに沿って歩きながら観察を行い、確認した植物と自然度の高い森林群落を記録する。記録は別紙「自然環境確認調査票」に記入する。

調査に当たっては、自然林の優占種となる高木樹種、常緑樹種、レッドデータブック掲載種（絶滅危惧種など）、開花・結実してもものに留意する。哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、魚類、昆虫類などの動物についても記録する。

群落についてはその群落の主な構成種を階層別に記録する。

### (3) 記録の整理

記録に基づいて調査地区の自然環境についての考察を行い、確認事項を整理する。

## 5 考察

### (1) 調査地ごとの植生

#### ① 愛宕山

頂上付近の北側斜面上部に胸高直径50cm前後のイヌシデが優占しコナラやケヤキを混生する群落高15mの群落がある。低木層でアオキ、草本層でオオバジャノヒゲが優占するイヌシデアオキオオバジャノヒゲ群落がある。南斜面ではアカガシ、シロダモなどの常緑樹が確認されたが、群落内では確認されなかった。モミも確認されていない。

愛宕山の自然林は、今の時点では、イヌシデ林を考えるのが妥当であろう。

#### ② 沢田山

中腹の北西斜面に、群落高15m、胸高直径35cm前後のイヌシデが優占しモミも混生する群落が確認された。低木層でアオキ、草本層でチゴユリが優占するイヌシデアオキチゴユリ群落である。コースではシロダモが確認されたが群落内では確認されなかった。

沢田山のイヌシデ・モミ自然林の存在が考えられる。

#### ③ 須江山

須江丘陵の自然林を推定する参考になる群落として、二次林ではあるが比較的自然度の高い、コナラ・イヌシデ群落とイヌシデ・コナラ群落が確認された。

コナラ・イヌシデ群落は胸高直径25cmのコナラ優占しイヌシデを混生する群落高12mの二次林で、亜高木層でモミ、低木層でアズマネザサ、草本層でヤブコウジがそれぞれ優占する。林床にはアカガシも見られた。

イヌシデ・コナラ群落は胸高直径30cmのイヌシデが優占しコナラを混生する群落高13mの二次林で、低木層でアズマネザサ、草本層でヤブコウジが優占するのはコナラ・イヌシデ群落と同様であるが、亜高木層にアカガシ、シラカシが多いのが特徴的である。

モミ、シラカシ、アカガシ、ウラジロガシの高木が目立ち、常緑の種が多く見られることと併せて考えると、これらの群落は、将来、カシ類などの常緑樹を混生するモミ林やイヌシデ林に遷移するものと考えられよう。

#### ④ 奈羅山

旭山丘陵の南東部の低標高地の緩斜面に高さ18m、胸高直径50cm前後のモミが優占する林がある。亜高木層にシラカシ、アカガシ、シロダモなどの常緑樹種が混生し、低木層でアズマネザサが優占するモミアズマネザサ群落である。自然林を構成する落葉広葉樹種ではイヌシデ、アカシデが確認された。

平成19年度の環境保全リーダー研修会の観察地に選んだ旭山丘陵北東部の前谷地黒沢地区ではケヤキやエドヒガンと混生するイヌシデ林があり、付近にアカガシも生育することを観察している。

旭山丘陵の下部には常緑樹種を混生するモミ自然林とイヌシデ自然林の存在を  
考えることができるのではないかと。さらに、調査地点を増やしながら確認して  
いくことが必要である。

#### ⑤ 走ヶ崎

雄勝半島の明神山から北に延びた尾根の先端が、ほとんど陸繋島のように追波  
湾に突き出しているのが走ヶ崎で、吉岡氏の植生図では(1)モミ・イヌブナ林の区  
域に入る。

走ヶ崎では、南北に走る稜線を境にして、東側にタブノキが優占する常緑広葉  
樹林、西側にミズナラが優占する落葉広葉樹林が確認された。

タブノキ林は、林床に常緑のモチノキ、ヒサカキ、トベラなどが目立ち、草本  
層でヤブコウジが優占するタブノキ・ヤブコウジ群落で、宮城県内の海岸や島嶼  
でみられる代表的な暖温帯林である。

ミズナラはブナと並んで冷温帯の代表的な樹種とされているが、石巻市域の海  
岸部ではよく小群落をつくっている。詳しい群落調査はできなかったが、走ヶ崎  
ではシナノキ、オオバボダイジュなどを混生し、林床にマルバキンレイカなども  
確認され、冷温帯要素の目立つ群落である。

このような対照的な群落が住み分けながらほぼ同所的に存在するというのも、  
中間温帯の自然の特徴の一つと考えられる。

#### ⑥ 姥懐（鳥屋森）

硯上山から北西に伸びた支脈が富士沼東岸まで延びた先端の丘で、北上大橋付  
近からは小型の富士山のように見える。針丘地区には富士沼から流れる富士川も  
あり、この丘の山容がもとになってできた地名ではないだろうか。南側中腹に羽  
黒神社がある。

この山で自然度の高い群落は、頂上付近の西斜面のアカシデが優占する二次林  
である。コナラを混生し低木層でスズタケが優占するアカシデ・コナラ・スズ  
タケ群落である。

山麓部でシロダモ、ヤブツバキ、スギ植林地の中でタブノキの稚樹が1株確認  
されているが、頂上付近の群落では常緑樹種は確認されなかった。山頂部の北側  
にイヌブナ、山麓部にイヌシデ、ケヤキが確認されているが、まとまった群落を  
つくっているものは確認されなかった。またモミも確認されなかった。

針岡地区には、富士沼の西岸側の沢釜沢にイヌブナ群落、福地山東側にモミ・  
イヌブナ群落があり、吉岡氏の植生図の(1)モミ・イヌブナ自然林域と合致する。  
姥懐のこの丘もイヌブナ自然林が成立する地域にあると考えられる。

#### (2) 内陸の丘陵地の自然植生について

調査地の①、②、③、④は吉岡氏の植生図で(2)アカマツ・コナラ林とされている  
内陸の丘陵地である。調査では全部の調査地でモミかイヌシデの優占する林が確認

され、イヌブナは個体としても確認されなかった。このことから、この地域の自然林はモミ・イヌブナ林域と区別して、モミ・イヌシデ林とすることができそうである。しかし、これまでの調査で(1)モミ・イヌブナ林とされている北上高地・牡鹿半島地域でもイヌブナの出現しないモミ優占群落やイヌシデ優占群落が確認されている。

(2)の内陸丘陵地の植生をモミ・イヌシデ林地域とするには、(1)の北上・牡鹿地域のモミ・イヌブナ林との比較検討をする必要がある。区別点を明らかにするためには、常緑樹種の調査資料が役立つと思われる。

今回の調査では低標高地域、南に位置する地域、海に近い地域ほど常緑樹種が多く確認される傾向が見られたが、丘陵地全体ではどうなるのか、群落内ではどうなっているのか調査地点を増やしながら検討していく必要がある。

### (3) 北上高地・牡鹿半島地域の自然植生について

この地域にもモミやイヌブナを欠く区域がある。モミ・ブナ林、モミ・イヌシデ林、イヌシデ林、イヌシデ・オオバボダイジュ林などが確認されており、モミ・イヌブナ林で代表されてはいるがその実態はかなり多様である。走ヶ崎のタブノキとミズナラが同所的に群落を形成しているような区域やタブノキ・イヌシデ林、タブノキ・カシワ林、タブノキ・モミ林などが確認されている海岸や島嶼もある。

石巻の自然環境を把握するためには、(1)のモミ・イヌブナ林区域をいくつかの下位の単位に区分する必要がある。



調査地の植生の状況

調査地	自然林の優占高木樹種	自然林群落	常緑樹種一覧
① 愛宕山	ケヤキ・イヌシデ	イヌシデ林（イヌシデ ーアオキーオオバジャ ノヒゲ群落）	アカガシ・シロダモ・ ヤブツバキ・ヤツデ・ アオキ・イヌツゲ・マ サキ・ヤブコウジ・キ ツタ・テイカカズラ
② 沢田山	ケヤキ・イヌシデ・モ ミ	イヌシデ林（イヌシデ ーアオキーチゴユリ群 落）	シロダモ・ヤブツバ キ・アオキ・ツルマサ キ・キツタ
③ 須江山	ケヤキ・イヌシデ・モ ミ	イヌシデ林（イヌシデ ーアズマネザサーヤブ コウジ群落）	アカガシ・シラカシ・ ウラジログアシ・シロダ モ・ヤブツバキ・カク レミノ・アオキ・イヌ ツゲ・マサキ・ヤブコ ウジ・キツタ・ツルマ サキ
④ 奈羅山	モミ・イヌシデ・アカ シデ	モミ林（モミーカシー アズマネザサ群落）	アカガシ・シラカシ・ シロダモ・タラヨウ・ アオキ・イヌツゲ・マ サキ・ヤブコウジ・キ ツタ
⑤ 走ヶ崎	ケヤキ・イヌシデ・タ ブノキ・ミズナラ	タブノキ林（タブノキ ーヤブコウジ群落）、ミ ズナラ林（ミズナラ・ シナノキ群落）	タブノキ・モチノキ・ ヒサカキ・トベラ・キ ツタ・テイカカズラ
⑥ 姥懐	ケヤキ・イヌシデ・イ ヌブナ・アカシデ・タ ブノキ	アカシデ林（アカシデ ースズタケ群落）	タブノキ・シロダモ・ ヤブツバキ・アオキ・ シキミ・ヤツデ・キツ タ・テイカカズラ

主要高木樹種と常緑樹種一覧

調査地	地名	愛宕山	沢田山	須江山	奈羅山	走ヶ崎
	区域	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)
	地形環境	独立丘陵	丘陵南西部	丘陵南麓	丘陵下部	陸繋島
	標高(m)	96	119	63	25	45
	位置	曾波神山	沢田山丘陵	須江丘陵	旭山丘陵	雄勝半島西部
主要樹種	種名					
	モミ		○	○	◎	
	アカシデ				○	
	イヌブナ					
	イヌシデ	◎	◎	◎	○	○
	ミズナラ					◎
	タブノキ					◎
	ケヤキ	○	○	○		○
常緑樹種	種名					
	アカガシ	○	●	○	○	
	シラカシ			○	○	
	ウラジロガシ			○		
	シロダモ	○	○	○	○	
	ヤブツバキ	○	○	○		
	タブノキ					◎
	モチノキ					○
	タラヨウ				○	
	カクレミノ			○		
	ヤツデ	○				
	アオキ	○	○	○	○	
	マサキ	○		○	○	
	ツルマサキ		○	○		
	イヌツゲ	○		○	○	
	ヤブコウジ	○		○	○	
	シキミ					
	ヒサカキ					○
	トベラ					○
	テイカカズラ	○				○
キツタ	○	○	○	○	○	
計		10	6	12	9	6

※ 「●」は文献による。

## 6 今後の調査について

市域の自然環境についてより正確に把握するためには、できるだけ多くの地点のデータが必要である。市域全体の調査を行うためには、調査員が決められた調査日に実施するだけでは長い年月を要することになる。

将来は詳しい調査をするにしても、差し当たっては調査資料のない空白域の調査を短期間にやれるような調査方法を考えて、既存の資料と合わせて石巻市域の自然環境の概要を把握することが急務である。自然環境に関心を持つ多くの人々が調査に参加する体制をつくり、将来にわたって継続した調査ができるようにするための方策を考えたい。

## 參考資料

石巻市自然環境確認調査票

No. 1

1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名	曾波神山		
	標高	70~85m	地域区分	山地・丘陵
	面積	20m	×	20m
調査年月日	平成19年7月9日			
調査者氏名	佐々木 豊			
	鷹見 慶一郎			

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	イヌシデ - アオキ - オオバジャノヒゲ群落		
地形	斜面の上部	方位	北
群落高	15m	胸高直径	58cm
主な高木層の植物の名称	イヌシデ		
主な亜高木層の植物の名称	アワブキ		
主な低木層の植物の名称	アオキ		
主な草本層の植物の名称	オオバジャノヒゲ		

(2)

群落名	- - 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名
環境省	絶滅危惧 類	センウズモドキ
宮城県	要注目種	

4 開花・結実などの目立った植物

開花	
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	
------------------------	--

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

イヌシデ・ホオノキ・コナラ・アカガシ・シロダモ・ケヤキ・クマノミズキ・エドヒガン・コブシ・クリ・カシワ・クヌギ・ナラガシワ・カスミザクラ・ウワミズザクラ・イヌザクラ・スギ・カヤ

(2) 亜高木層の樹種

ヤブツバキ・アワブキ・マルバアオダモ・カヤ・エゴノキ・カマツカ・クサギ

(3) 低木層の樹種

ヤツデ・アオキ・イヌガヤ・イヌツゲ・マサキ・ヤブコウジ・ニワトコ・サンショウ・アブラチャン・ムラサキシキブ・マユミ・ヤブサンザシ・オオバクロモジ・ツリバナ・ウラジロイチゴ・コゴメウツギ・ヤマウグイスカグラ

(4) ササ・タケ類

アズマネザサ・ヤダケ・マダケ

(5) ツル植物

テイカカズラ・フジ・エビヅル・キツタ・ツタウルシ

(6) 主な草本層の植物

ヤマイヌワラビ・オシダ・ヒロハノハネガヤ・オニユリ・クルマユリ・オオウバユリ・チゴユリ・シオデ・ミミガタテンナンショウ・オオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・ヤブコウジ・イヌワラビ・ヘビノネゴザ・ヒトリシズカ・チゴユリ・キツタ・オオバショウマ・ミヤマナルコユリ・ツルマサキ・ササバギンラン・シンミズヒキ・ヤブヘビイチゴ・オトギリソウ・カラスウリ・ハエドクソウ・ヒヨドリバナ・ダキバヒメアザミ・ホタルブクロ・ナキリスゲ・ミチノクヤマタバコ

1 参考文献

Blank box for references.

2 地図等



1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名	沢田山(旧河北町小船越)		
	標高	50~70m	地域区分	山地・丘陵
	面積	20m	×	20m
調査年月日	平成19年7月9日			
調査者氏名	佐々木 豊			
	鷹見 慶一郎			

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	イヌシデ - アオキ - チゴユリ群落		
地形	斜面の中部	方位	北西
群落高	15m	胸高直径	37cm
主な高木層の植物の名称	イヌシデ		
主な亜高木層の植物の名称	アワブキ		
主な低木層の植物の名称	アオキ		
主な草本層の植物の名称	チゴユリ		

(2)

群落名	- - 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名
環境省	絶滅危惧 類	センウズモドキ
宮城県	要注目種	

4 開花・結実などの目立った植物

開花	
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	ノシメトンボ・カワトンボ
------------------------	--------------

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

シロダモ・ケヤキ・ホオノキ・ミズキ・イヌシデ・エドヒガン・エノキ・コナラ・クリ・クヌギ・ナラガシワ・カスミザクラ・ウワミズザクラ・イヌザクラ・モミ(胸高直径65.5cm)・カヤ

(2) 亜高木層の樹種

ヤブツバキ・エゴノキ・カマツカ・クサギ・アワブキ・エゴノキ

(3) 低木層の樹種

アオキ・ムラサキシキブ・マユミ・サンショウ・ヤマブキ・オオバクロモジ・イヌガヤ・ウラジロイチゴ・ツノハシバミ・ヤマウグイスカグラ・イチイ・ハナイカダ・ウメモドキ・ツリバナ・イボタノキ

(4) ササ・タケ類

アズマネザサ

(5) ツル植物

ツルマサキ・キツタ・スイカズラ

(6) 主な草本層の植物

オオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・コチヂミザサ・ペニシダ・トウゴクシダ・イヌワラビ・オクマワラビ・ハリガネワラビ・エンレイソウ・センウズモドキ・ヤマジノホトギス・ミヤマシケシダ・ホソバナライシダ・ヤマイヌワラビ・ミヤマイトチシダ・ゼンマイ・クルマユリ・ヤマユリ・チゴユリ・シオデ・ジュズスゲ・ホウチャクソウ・キツネノボタン・クモキリソウ

1 参考文献

沢田山の植物相(下山祐樹)

2 地図等





1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名	須江山(旧河南町須江地区)		
	標高	50~70m	地域区分	山地・丘陵
	面積	20m	×	20m
調査年月日	平成19年7月27日			
調査者氏名	佐々木 豊			
	根本 智行			
	佐藤 堯			
	鷹見 慶一郎			

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	コナラ - モミ - アズマネザサ - ヤブコウジ群落		
地形	斜面の中部	方位	北西
群落高	12m	胸高直径	25cm
主な高木層の植物の名称	コナラ・イヌシデ		
主な亜高木層の植物の名称	モミ		
主な低木層の植物の名称	アズマネザサ		
主な草本層の植物の名称	ヤブコウジ		

(2)

群落名	イヌシデ - カシ - ヤブコウジ群落		
地形	斜面の上部	方位	南
群落高	13m	胸高直径	30cm
主な高木層の植物の名称	イヌシデ・コナラ		
主な亜高木層の植物の名称	アカガシ・シラカシ		
主な低木層の植物の名称	アズマネザサ		
主な草本層の植物の名称	ヤブコウジ		

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名

4 開花・結実などの目立った植物

開花	クサイ・オニユリ・クマユリ・ヤブカンゾウ・ヒメガマ・オニドコロ・ネジバナ・キカラスウリ・オカトラノオ・クサノオウ・ヤブガラシ・ダイコンソウ・キツネノボタン・オトギリソウ・ヤマニガナ・ヤブジラミ・ヒヨドリバナ・セリ・ガガイモ・ニガクサ・リョウブ・マサキ
結実	ハナビセキショウ・ガマズミ・ノブドウ・ウマノミツバ・ウワミズザクラ・イヌザクラ・アリノトウグサ・アワブキ

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	ギンヤンマ・オニヤンマ・ノシメトンボ・ナツアカネ・シオカラトンボ・オオムラサキ(オス・メス)・カナブン・ヨツボシケシキスイ・アメンボ・オオアメンボ
------------------------	---

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

アカガシ・シロダモ・シロカシ・ウラジロガシ・ケヤキ・イヌシデ・エノキ・コナラ・クリ・クヌギ・カスミザクラ・ウワズミザクラ・イヌザクラ・クマノミズキ・ネムノキ・ケンボナシ・モミ・カヤ

(2) 亜高木層の樹種

ヤブツバキ・カクレミノ・アワブキ・リョウブ・エゴノキ・ハシバミ

(3) 低木層の樹種

アオキ・イヌツゲ・マサキ・ヤブコウジ・ツノハシバミ・ミヤマガマズミ・ガマズミ・ニガイチゴ・ムラサキシキブ・マユミ・サンショウ・ヤマブキ・オオバクロモジ・イヌガヤ

(4) ササ・タケ類

アズマネザサ・ヤダケ・ミヤコザサ

(5) ツル植物

ツルマサキ・キツタ・ノブドウ

(6) 主な草本層の植物

オオバジャノヒゲ・ヒメヤブラン・イッポンワラビ・ショウブ・アカソ

1 参考文献

河南町の植物(その一)須江山地区の植物(大久保守哉、1974、宮城の植物2号:25 - 27)

2 地図等



1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名	奈羅山(旧河南町北村地区青木川沿岸)		
	標高	10~25m	地域区分	山地・丘陵
	面積	20m	×	20m
調査年月日	平成19年7月27日			
調査者氏名	佐々木 豊			
	根本 智行			
	佐藤 堯			
	鷹見 慶一郎			

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	モミ - カシ - アズマネザサ群落		
地形	斜面の中・下部	方位	北東
群落高	18m	胸高直径	65cm
主な高木層の植物の名称	モミ		
主な亜高木層の植物の名称	シラカシ・アカガシ・シロダモ		
主な低木層の植物の名称	アズマネザサ		
主な草本層の植物の名称	キッコウハグマ・ミヤマウスラ		

(2)

群落名	- - 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名

4 開花・結実などの目立った植物

開花	
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	ノシメトンボ・ナツアカネ・ショウジョウトンボ・マユタテアカネ・オオイトトンボ・ハグロトンボ・ニイニイゼミ・ヒグラシ・エゾゼミ・アブラゼミ・ミスジチョウ・カワニナ・カラスガイ・タニシ・ザリガニ・アマガエル・アカガエル
------------------------	---

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

アカガシ・シロダモ・シロカシ・タラヨウ・イヌシデ・アカシデ・モミ

(2) 亜高木層の樹種

(3) 低木層の樹種

アオキ・イヌツゲ・マサキ・ヤブコウジ

(4) ササ・タケ類

アズマネザサ

(5) ツル植物

キツタ

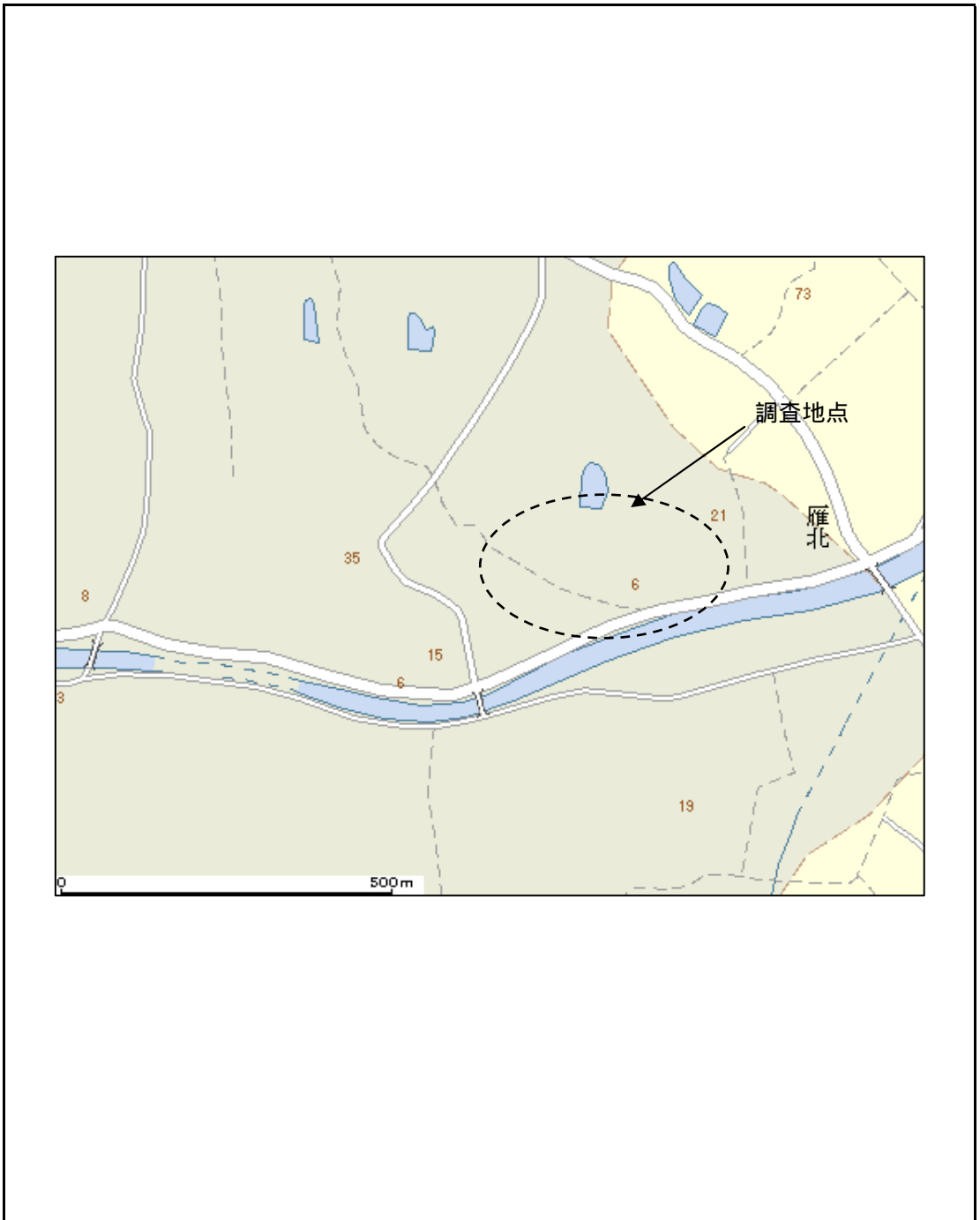
(6) 主な草本層の植物

オオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・ムヨウラン・カワラナデシコ・チダケザシ・アキカラムツ・ヒヨドリバナ・オトギリソウ・ミヤマウスラ・イグサ

1 参考文献

Blank box for references.

2 地図等



1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名	姥懐(針岡)		
	標高	145m	地域区分	山地・丘陵
	面積	20m	x	20m
調査年月日	平成19年10月10日			
調査者氏名	佐々木	豊		
	根本	智行		
	佐藤	堯		
	鷹見	慶一郎		
	遠藤	安彦(石巻市環境保全リーダー7期生)		

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	アカシデ - スズタケ群落		
地形	斜面	方位	東
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

(2)

群落名	- 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名

4 開花・結実などの目立った植物

開花	ヤマハッカ、シロヨメナ、ヤマゼセリ
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	
------------------------	--

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

ホウノキ、イヌシデ、ヤマモミジ、シロダモ、カラマツ、タブノキ、ケヤキ(羽黒神社 - 下部は杉植林、常緑・シダ多し。)  
 イヌシデ、イヌブナ、イヌガヤ、クリ、カスミザクラ(山頂部北側)  
 イタヤカエデ、ウリハダカエデ、アカシデ、コナラ、カスミザクラ(山頂部西側)

(2) 亜高木層の樹種

イヌガヤ、カヤ、シラキ、クサギ、チドリノキ、タラノキ、ウラジロノキ、ウワミズザクラ、アズキナシ、アオハダ、コシアブラ

(3) 低木層の樹種

ヤブツバキ、アオキ、ヤブムラサキ、シキミ、イヌザンショウ、ヤツデ(羽黒神社)  
 ナツハゼ、ヤマツツジ、ヤブムラサキ、ケアブラチャン(山頂部西側)

(4) ササ・タケ類

アズマネザサ、コチヂミザサ、スズタケ

(5) ツル植物

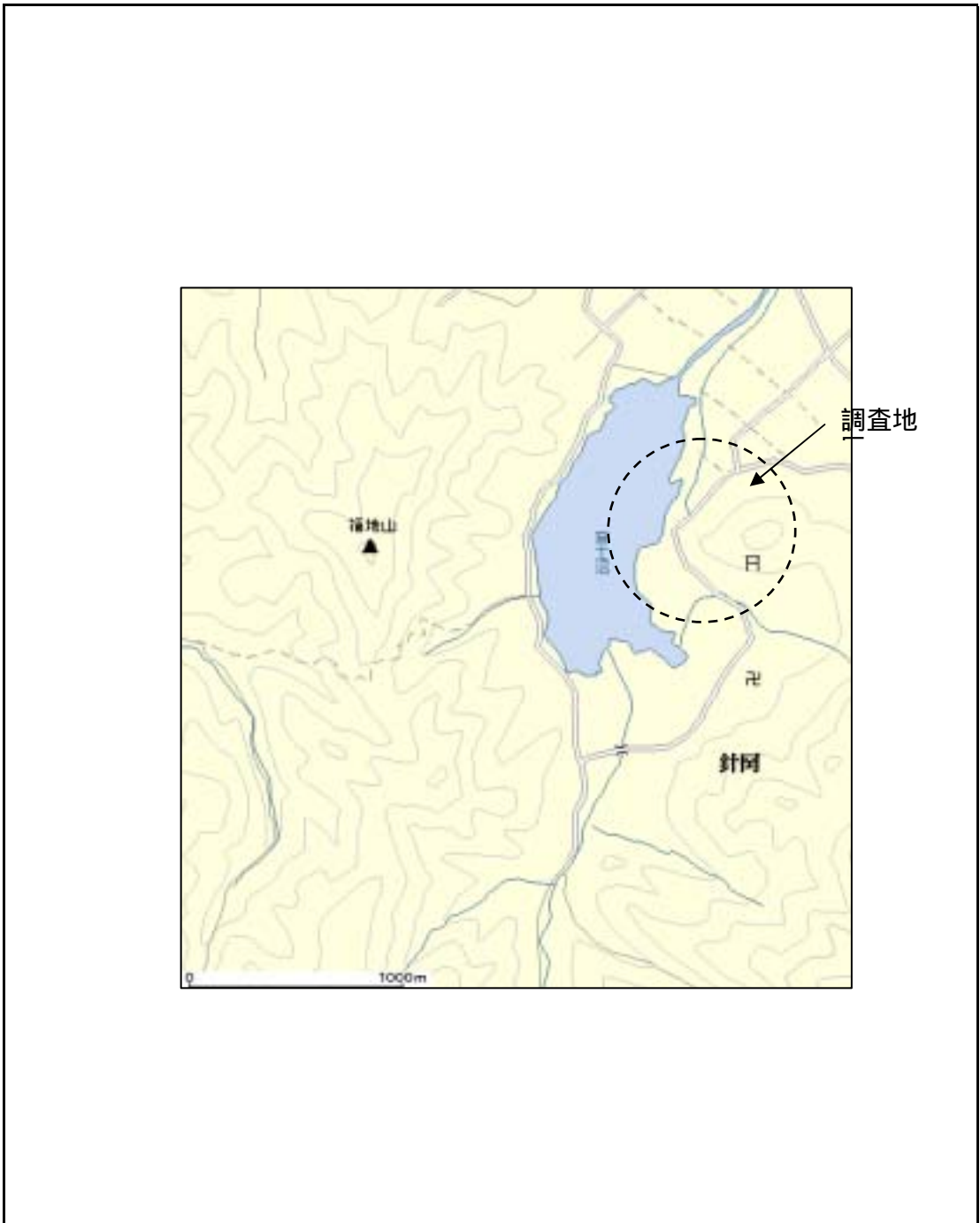
フジ、キツタ、テイカカズラ、アケビ、ヤマカシュウ、スイカズラ、ツタウルシ、ヤマウルシ、タラノキ

(6) 主な草本層の植物

ジャノヒゲ、セントウソウ、ヤマハッカ、シロヨメナ、キバナイカリソウ、キバナアキギリ、ヤマゼリ、センニンソウ、イワガラミ、シャガ、ダイコンソウ、ドクダミ、サイハイラン、クマウラビ、オオバノイノモトソウ、リョウメンシダ、ホソバナライシダ、ミズヒキ、サカゲイノデ、メヤブマオ、オニシバリ、サワアザミ、ヤマイタチシダ、ジュウモンジシダ、サワギク、コアカソ、アオヒメワラビ、チゴユリ、マルバアオダモ、ユキザサ、ジャノヒゲ、タガネソウ、ツクバネウツギ、アワブキ、ウスバサイシン、キッコウハグマ

1 参考文献

2 地図等



石巻市自然環境確認調査総括調査票

No. 1

1 調査地域等(地図等は別添のとおり)

調査地域	地名			
	標高	m	地域区分	
	面積	m	x	m
調査年月日	平成 年 月 日			
調査者氏名				

2 確認した代表的な自然群落(確認した樹種等の詳細は裏面)

(1)

群落名	- 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

(2)

群落名	- 群落		
地形		方位	
群落高	m	胸高直径	cm
主な高木層の植物の名称			
主な亜高木層の植物の名称			
主な低木層の植物の名称			
主な草本層の植物の名称			

3 確認されたレッドデータブック掲載種

国・県の区分	カテゴリー区分	標準和名

4 開花・結実などの目立った植物

開花	
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類・昆虫類・その他	
------------------------	--

6 確認した植物

(1) 高木層の樹種

--

(2) 亜高木層の樹種

--

(3) 低木層の樹種

--

(4) ササ・タケ類

--

(5) ツル植物

--

(6) 主な草本層の植物

--

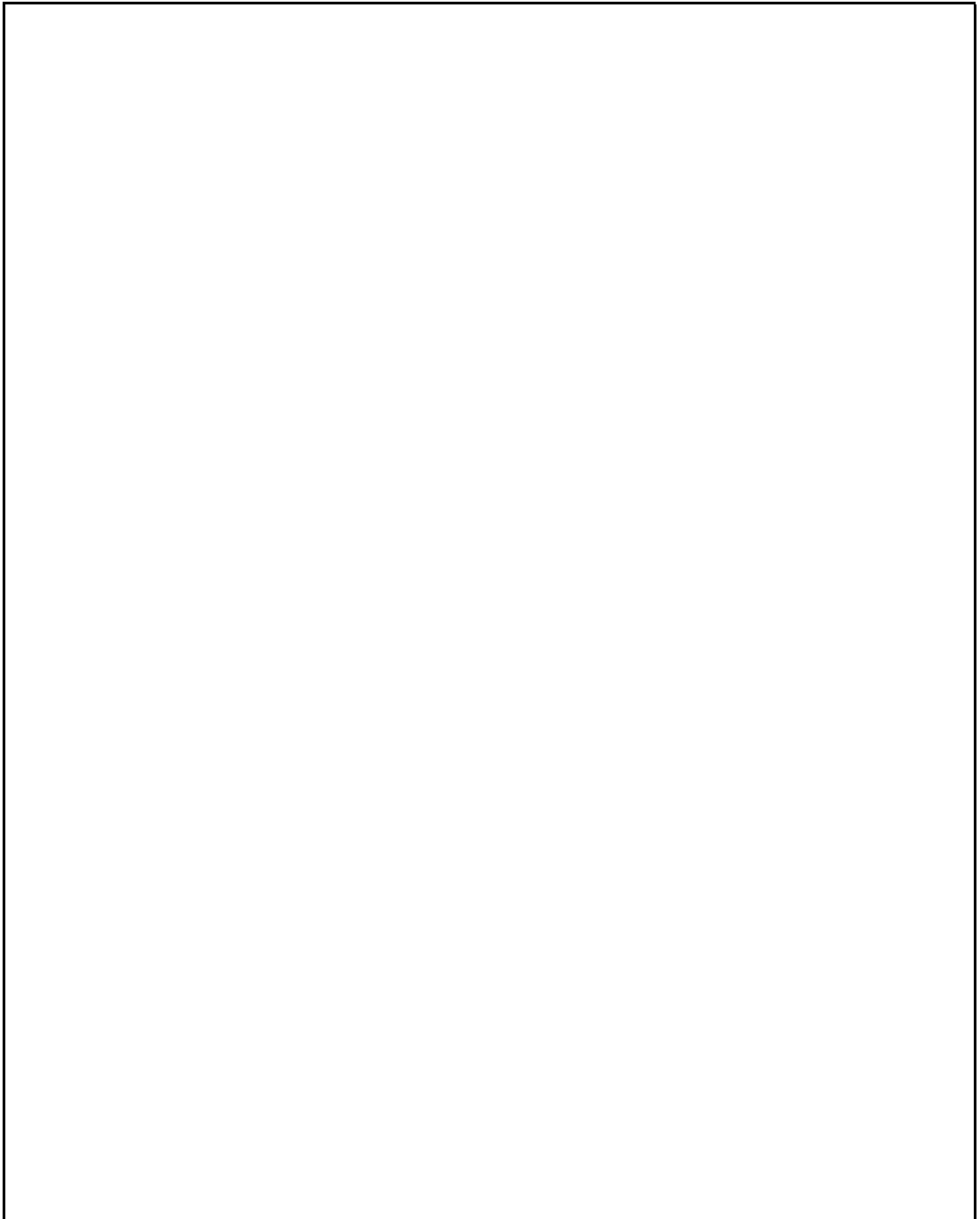
# 石巻市自然環境確認調査総括調査票

No. 2

1 参考文献



2 地図等





石巻市自然環境確認調査票(現地確認用)

1 調査地域等

調査地域	地名			
	標高	m	地域区分	
	面積	m	x	m
調査年月日		平成 年 月 日		
調査者氏名				

2 地形等の状況

地形			方位	
群落高	15 m	胸高直径	樹種	cm

3 確認された植物

(1) 高木層の樹種

--

(2) 亜高木層の樹種

--

(3) 低木層の樹種

--

(4) ササ・タケ類

--

(5) ツル植物

--

(6) 草本植物

--

4 開花・結実などの目立った植物

開花	
結実	

5 確認された動物

哺乳類・爬虫類・ 両生類・鳥類・昆 虫類・その他	
--------------------------------	--

6 備考

--

## 平成 19 年度石巻市自然環境確認調査結果報告書

発行年月 平成 20 年 3 月  
編集・発行 石巻市生活環境部環境対策課  
〒986 - 8501 宮城県石巻市日和が丘一丁目 1 番 1 号  
電話番号 0225 95 1111  
ファクシミリ番号 0225 22 6120  
e mail isenvmeas@city.ishinomaki.lg.jp  
ホームページ <http://www.city.ishinomaki.lg.jp/>